

2018
おもろ
チャレンジ

ガーナの孤児院での自立支援により 学生の国際協力に一石を投じる

農学部 3年

松浦 正典

ガーナ

2018年8月28日-

2018年9月20日



渡航概要と内容

本渡航は私が代表を務める NGO 団体「ガーナのこどもと ShareStep」の活動を行うために行った。

本渡航で行ったことは主に以下の2つである。

1. 孤児院の自立を実現するための農業プロジェクトの評価

ガーナ・イースタン州コフォリデュアにて、支援する孤児院のオーナーと行う農業（プランテーション栽培）の収入の概算・今年度の予算の把握・現在の農地状況確認・今後の展望の確認を行った。

今年度はプランテーション栽培を始めて1年目ということもあり約2000セディ（45000円）の赤字となることになった。

来年以降は初期費用が掛からなくなるので黒字化していくという結論に至った。

現在の農地は3エーカーで、プランテーションを1000本植えている。来年以降は4エーカーに広げ更なる収益拡大を図っていくことで合意した。

また、孤児院のオーナーはマネーマネジメント力が高いと客観的に言えないため、3年目以降黒字化しなければ ShareStep が資金を提供するのは停止する旨を含めた予算等の契約書を作成した。

2. 孤児院の自立支援をより確かなものにするための新プロジェクトをローンチするための活動

ガーナ北部の都市タマレ・孤児院のあるベゴロにて各地の政治家に会い、新たな農業ビジネスに孤児院の支援・新たな支援先候補となる孤児院を見学した。

特にベゴロではベゴロが郡都であるファンテアクワ郡の前郡長に会い、彼と新たに農業ビジ

ネスを行い、農作物を孤児院に供給することでガーナ人によるガーナ人の孤児院経営を実現していこうという趣旨のことを話した。

彼も政治家ということで、日本人と協力して孤児院の支援に取り組むことにはかなり前向きにとらえているようだった。また彼に目を付けた理由は政治家というだけでなく、農家でもあることで、かなり手広く（200エーカー）農業をやっている。これらからノウハウや、マネジメントにたけているのだろうと感じられた。今後の協働の可能性について前向きに考えていきたい。



- 日本との文化の違いで苦労したこと

基本的にガーナ人は外国人に対して適性価格を示さない（すでに掲示されてる場合を除き）ので、なんらかのものを購入するときに交渉が必要かつ苦労が強いられる。

- 渡航中のトラブル

台風21号の影響で帰国便が欠航し新たに便を取らなければいけなくなった。

しかし、ネット環境が当たり前ではないガーナでは新規WEB予約に困難した。

今回は海外旅行保険が効きそうなので、費用の面は心配しなくてもいいのは助かった。

渡航を通じて感じたこと・学んだこと

今回の渡航では、現パートナーである孤児院のオーナーのマネジメント能力があまり高くないことが浮き彫りになり、国際協力で最も難しいのは、熱意と能力が伴った現地の人とタッグを組めるかということ強く感じた。それだけに今回、新しいパートナーとなる可能性のある現地の政治家の方は個人的にかなり適任であると感じたので、団体内で検討したい。

今回の渡航中、体調が万全であることが少なかった。理由としては辛い物を避けずに辛いものばかり食べて、水をたくさんとっていたからだと考えられるが、ガーナの気候風土になるべく順応しようと思いついたこうどうなので、そこを今後改めることはない。つまり、この渡航により明らかになったことは、ガーナという国が自分の体に合っていないということだ。渡航概要で述べた通りいくつかのことをガーナで行ったが、任務を無事、遂行し、高い成果を上げるためには気力、体力の充実が絶対に必要であるということ強く実感した。

■ 今回の経験をどのように今後生かしていくか

本渡航で得た情報・人脈をもとに、新たなプロジェクトを団体として初めて行きたいと思う。前から行っている農業プロジェクトに比べて、かなり大規模な農業を行えればと考えている。収益としては、最終的に500万円を超える規模のものにしていけると今回の渡航を経て感じた。

また、渡航計画書に書いた通り、今後団体の活動を周知するために、国際開発に知見のある学者や、開発ワーカーの方を招いた講演会を開ければと考えている。

■ 今後本プログラムを希望する学生へのアドバイス

プログラムに応募しようと思って実際に計画書を提出する。その一歩を踏み出すことができる行動力のある学生は、本プログラムに採択されて、現地に行った時もその思い切りの良さで満足した渡航ができると思うので、興味がわいたら、計画書を作ってぜひ応募してみてください。アフリカの場合、国の仕組みも日本に比べたらまだまだ未熟で、僕のように現地の有力な政治家に会うことも可能です。何か大きいことをやりたい場合、アフリカなら、政治家にコンタクトをとってみることをおすすめします。

■ 主な奨学金の使途

*渡航費

*食費

*宿泊費

*現地交通費

*海外旅行保険、薬代、通信費 など

